



寺報

2017年(平成29年)

No. 258

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

縁

報恩講をご縁に(その2)

家庭での「報恩講」をお勤めいたしましょう!

「報恩講」は、阿弥陀如来の本願のお心を明らかにして下さった宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、そのご恩に感謝の思いからお勤めされる、もっとも大切な法要です。

「報恩講」は、お寺でお勤めされるだけではなく、古くから広くご門徒の家庭でもお勤めされてきました。地方によっては、「親の法事はもちろん大切だけど、報恩講はさらに大切」とまで言われるほどです。親の法事の他に、さらに「報恩講」が大切とは、どういうことなのでしょうか?

その答えは、親鸞聖人の教えの中にはあります。

「歎異抄」は、親鸞聖人が「亡き父母の追善供養のために念佛したことは、かつて一度もありません」とおっしゃったと伝えられています。そう聞くと、「親鸞聖人は親不孝だったの?」と思われる方がおられるかもしれません、そうではありません。「歎異抄」には、続けて「というのは、命あるものはすべてみな、これまで何度も生まれ変わり死に変わりしてきた中で、父母であり兄弟・姉妹であったのです。この世の命を終え、浄土に往生してただちに仏となり、どの人もみな救わなければならぬのです」と記されています。

確かにお父さん、お母さんこそが、直接に私に命をくださった方かもしれません、命の連続の中で考えるなら、すべての命はつながっているのです。私たちは、自然の恵みのもとで多くの命とつながり合い、はぐくまれています。そして、多くの方々の支えと仏さまのご縁に、いかされて生きているのです。

このように、多くの命のつながりと、私の命の落ち着き先である浄土への道を示し、今の私を支えて下さる「畢竟依(ひきょうえ)」(究極のよりどころの意)を示してくださったのが親鸞聖人でした。ですから、私たちは、阿弥陀如来のおこころを聞かせていただくとともに、親鸞聖人のお導きへの感謝の思いから「報恩講」を大切にお勤めしてきたのです。

たくさんのご家庭と一緒に住むの方、実家から離れ別の土地で世帯を持たれている方、マンションなどで一人暮らしをなさっている方、現代はさまざまな生活の形がありますが、念佛者として一番大切な「報恩講」をお勤めいたしましょう。



住職レター

この寺報でも何度かお知らせしておりました
が、この度、『浄土と縁を結ぶ』をコンセプトに、
善教寺墓苑(名称…慈雲山浄縁)を開山いたしま
す。一番の特徴は、年間の管理費を収めて頂くこ
となく、お墓を永代にお守りすること。

ここ数年、『墓じまい(お墓を撤去し、近くの墓地や永
代供養墓地に移転すること)』される方が多くなりま
した。今後の社会情勢や家族構成を考えますと、善教寺で
お墓をお守りし、永代に供養することは責務であると
思っております。

お墓について、これをご縁に、ご家族皆さまで、話し
合つてみて頂けたらと思います。お骨は、どこに納骨し
て、誰がお墓を管理して供養していくのか?
一昔前は、お墓について考える必要はありませんで
した。次の代(ご子息さまや継承者)が、適切に判断して
こられたからであります。

お問い合わせ下さいね。
ご希望のエリア、区画が
ございましたら、善教寺ま
でお問い合わせ下さいね。

善教寺墓苑は、五つのエ
リア(永代合葬墓エリア・和
スタイル墓エリア・洋スタ
イル墓エリア・プレート墓
エリア・ペット専用墓エリ
ア)を設け、整然とした雰囲
気で、若い世代の方も気楽
にお参り出来る素敵な墓苑
に致します。



慈雲山浄縁 案内パンフレット